

8月8日のウクライナ情報

安斎育郎

●あまり見ない映像:イルカと戯れるプーチン(2022年7月14日)

<https://youtu.be/wP5Nn76MqeQ>

※安斎注:だれにでもこうするイルカなのかな?それにしても馬鹿になれなれしいので、プーチンは時折これらのイルカと遊んで、友達なのかな?

●2014~2016年のドネツクへのウクライナ軍の攻撃(2022年5月6日)

ハリコフの地下室に隠れている子どもたちの写真は、2014年にドネツクで撮影されたものであることが判明した。

ロシア人ジャーナリストは、8年前に写真が撮影された場所を発見した。それはチェリユスキンチェフ鉱山の防空壕で、最大200人がウクライナの砲撃から身を隠し、そのほとんどが子どもたちだった。

<https://twitter.com/jiroramo1192/status/1522544066306600961?s=20&t=TOqZ4bpPVH2bi-t7aMyagg>

●ダグラス・マクレガー元大佐がタッカー・カールソンの番組で台湾・ウクライナ問題を論じる(2022年8月4日)

<https://www.youtube.com/watch?v=Twyc-cFi5c>

※安斎注:ダグラス・マクレガーはウクライナ戦争についても独自の視点から分析をして、われわれに役立つ視点を提供してきましたが、今回の新たな解説も重要です。彼はウクライナ政府によってブラック・リストに載せられました。

●クリスタル・スペイン、プーチンのコマーシャルとアメリカの暴力を語る(2022年8月4日)

※安斎注:映像には「世界ニュース速報:アメリカ大丈夫!?シビルワー懸念、分裂、格差、不満炸裂」とタイトル・コメントがつけられています。プーチンも出てくる「冬はもう近い。今のうちにロシアに移住しない?」というコマーシャルは、ちょっと面白いですね。クリスタルも大笑いしたようです。それに続いて解説があるのは「暴力社会アメリカ」の実情です。ウクライナ情勢と直結はしませんが、最近のアメリカ市民に対するアンケート調査結果を踏まえた空恐ろしい話です。

<https://www.youtube.com/watch?v=WD5yk1c2t-M>

●原伸一さんの地雷「花びら」についての国連事務総長の会見に関わるコメント(2022年8月5日)

<https://youtu.be/zYYSI-xjApY>

※安斎注:地雷「花びら」は英語圏では「バタフライ」と呼ばれている対人地雷で、ウクライナ軍がドネツクなどに低空飛行する飛行機からばらまいたものと言われます。以前、タイヤをぶん投げて「花びら」を爆発させる危うい地雷除去の映像をお送りしましたが、ドネツクでは「花びら」の爆発の危険ゆえに「不要不急の外出を控えるよう」言われているそうです。映像を見ればわかりますが、夜になったら道路にこんなものがばらまかれていても見えません。これについて、フォーク・シンガーの原伸一さんは、国連事務総長のコメントを紹介しています。また、アムネスティ・インターナショナルが調査結果に基づいてウクライナ側に非人道的行為について警告したニュースも紹介されていますが、以前、マリウポリの劇場爆破についてのアムネスティ・インターナショナルの調査がいい加減で、ウクライナの仕業であると見抜けなかった事実もあるので、同国際NGOを絶対化するのは危険です。

●2014 年、ドンバスで分離独立運動が起こったわけ(2022 年 7 月 1 日)

<https://twitter.com/Tamama0306/status/1542870828916027392?s=20&t=rL34Efq-f25XbpPd2TPBtg>

※安斎注:これは非常に重要な証言映像です。「マイダン」に対する「反マイダン」の動きの発端が証言されています。「はじめは分離独立を望んでいたのではなく、ウクライナを構成する共和国となって連邦制となることを望んでいた」といいます。

●映画『ウクライナから平和を叫ぶ』(2022 年 8 月 3 日)

1 本目のドキュメンタリーを撮ったのは、以前から旧ソ連の国々取材していた 1 人のスロバキア人写真家。2015 年にはドネツク側の村で取材していたものの入国禁止にされて、以降はウクライナ側で取材再開。『ウクライナから平和を叫ぶ Peace to You All』9/16(金)から上映です。

<https://twitter.com/Sarnathhall/status/1554676103184551937?s=20&t=rL34Efq-f25XbpPd2TPBtg>



●カービー国防総省報道官「西側が 8 年間、戦闘作戦のためにウクライナ軍を準備してきた」(2022 年 7 月 27 日)

西側諸国が 8 年間、戦闘作戦のためにウクライナ軍を準備し、供給してきたことを公然と認めています。

<https://twitter.com/ciao fiore/status/1552127540264808449?t=iBm2RfCx4SxaeysJWkLAEQ&s=09>

●ネオナチスの若者教育風景(2021 年 8 月20日)

<https://odysee.com/@PYONTAKA:3/Gitmo:7>

※安斎評:私には薄気味悪い若者教育の風景です。

●2015 年には産経新聞もアゾフとナチスの類似性を指摘していた(2022 年 8 月 5 日)

THE SANKEI NEWS
トップ 速報 社会 政治 国際 経済 スポーツ エンタメ ライフ
ウクライナ 論点直言 話の肖像画 宝塚 主張 正論 産経抄 浪速風 産経Podcast

軍事ワールド

ナチス・ドイツの「象徴」を掲げるウクライナ義勇軍… 米国がミサイル供与をやめた理由

2015/6/22 15:00
産経WEST | できごと

政府軍と親ロシア派武装組織による戦闘が続くウクライナをめぐる、「ナチスの亡霊」の存在が事態の混乱に拍車をかけている。義勇兵部隊の「アゾフ大隊」で、米国は6月上旬、同大隊がネオナチだとして、支援する政府側への対空ミサイル供与計画を取りやめた。世界各地にいまなお巣くうナチス・ドイツの亡霊。ウクライナ情勢にも暗い影を落としている。(岡田敏彦)

「坂の上の雲より面白かった」
戦後GHQに禁書された菊池寛の歴史小説。戦前の日本人が知っていた真の明治とは？

ダイレクト出版

ハーケンクロイツを掲げる義勇軍

ロシアの一部メディアによると、2014年5月にウクライナ内務省管轄の部隊として発足した「アゾフ大隊」は、黒海北部にある内海のアゾフ海に近いドネツク州マリウポリに本部を置く。同年8月にロシア連邦軍とみられる部隊が攻撃を仕掛けた際には先頭に立って反撃したとされる。

同大隊はネオナチとの「共通点」が少なくない。

●ウクライナにネオナチはいない。そして、オバマ政権はファシストを支援していない (kalosklarity 2017 年 08 月 13 日)

上のタイトルは、ミシェル・チョスドフスキーによるもので、ほとんどのアメリカ人が持っている現実の否定を描いている。

アメリカは3年以上前からウクライナでナチスを財政的に支援し兵器化している。

その通り、オバマと、ウクライナ出身のユダヤ人であるビクトリア・ヌーランドの下、アメリカはウクライナからロシア人やロシアの価値観を持つ人々を「一掃」するために、ウクライナ国内の極右勢力の組織に資金提供を始めたのだ。

ヌーランドは、スヴォボダと呼ばれるウクライナのナチ党の指導者、オレグ・タヤニボックと満面の笑みを浮かべている。



このことは、我々の時代を理解し、政治家、宗教指導者、スポーツ選手などを含むアメリカ文化に横行する全くの偽善に光を当てるために不可欠である。

ノースカロライナ州シャーロットビルで暴力的になった白人至上主義者とナチの抗議活動を非難するすべてのアメリカ人は、ここ数日の間に 3 人の関連した犠牲者を出しているのである。

他の話に比べてかなり静かに、それは報道されたが、「アメリカのそのような外交政策の下劣な墮落のために」、不信の感情的な叫びの情熱的な抗議の言動は非常に少なかった。

2014 年にウクライナのキエフで、「オバマの完全な意識下で行われた」抗議活動が始まると、すぐに暴力的になり、100 人以上の死者を出す結果となった。

ビクトリア・ヌーランドは、これらの抗議行動について議会の公聴会に直面し、ナチスが存在し、当時のウクライナの民主的に選ばれた指導者を転覆させる結果となった抗議行動で暴力を先導したという事実を軽視し、あるいは完全に削除しようとした。

数年後、ジョージ・ソロスが当時のウクライナの社会・政治情勢で重要な役割を果たしていたことが明らかになった。

一台の車が群衆の中に突っ込んでいくような白人至上主義・ナチスの活動が、アメリカにとってそれほど非難されるべきものであるなら、

いったいなぜウクライナや世界の他の国々では完全に受け入れられ、望ましいとされているのだろうか。

アメリカは、「本物のナチスに軍事武器と訓練を提供するのと一緒に」この新しいウクライナに 10 億ドル以上の資金を費やした。

その後、ウクライナの紛争によって何千人もの人々が亡くなり、150 万人近くが避難生活を送っている。

ウクライナのかかなりの部分は、第二次世界大戦の時代にまでさかのぼるナチスのイデオロギーと長い間結びつき、関係をもっている。

例えば、アンドリー・メルニク、ステファン・バンデラ、イエベン・コノバレツツといったオーストリア・ハンガリー出身のナチスを称える像がウクライナにあるのだ。

以下のチョストフスキーの記事の写真には、これらの白人至上主義者ナチスの英雄が展示され、掲げられている写真もある。

ナチとナチの協力者の中に立っている「名誉ある」ジョン・マケインの姿さえ見えるだろう。



マケインがウクライナで演説するとき、ナチスのスヴォボダ党のリーダー、オレグ・タヤニボックが演説台上にいる。

このように、政治家、スポーツ選手、宗教家も含めて、実はアメリカはモラルが破綻しているのです。民主党であれ共和党であれ、あるいはどんな色や民族的背景を持つ人であれ、民族主義的な白人至上主義に対するアメリカの悲しみは、見せかけのものなのだ。

●ブチャ虐殺の黒幕(2022年4月10日)

※安斎注:「もうブチャの真実は分かったよ」という人も多だろうが、日本の大半の人は「ロシアの仕業」と思い込んでいます。これも関連資料として、参考にして下さい。

<https://ameblo.jp/haikibutu60/entry-12736709517.html>

●ゼレンスキー、アムネスティ・インターナショナルの報告にいら立つ(原伸一ライブ、2022年8月7日)

<https://youtu.be/YHLpZTsIJg8>